

# 平成24年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成24年11月29日  
栃木県農業環境指導センター

## ヒメボクトウ

1 害虫名：ヒメボクトウ *Cossus insularis* Staudinger

2 発生物名：なし

3 発生経過

平成24年9月27日、県農業試験場に、枝幹部から虫糞が排出され内部が食害されたなしの主枝と、集団で寄生する赤紫色のチョウ目幼虫が持ち込まれ、千葉大学の野村昌史准教授に同定を依頼した結果、ヒメボクトウと同定された。

これまで、県内に複数設置しているヒメボクトウの合成性フェロモントラップでは、成虫の誘殺が確認されているが、果樹園の被害については初確認である。

本種は、平成17年に徳島県でなしへの加害が報告された後、長野、秋田、福島、宮城、茨城、千葉、岩手と、主に関東から東北にかけて、なし・りんごに対する加害の報告がある。

4 被害の特徴

- (1) 幼虫は集団で材部を食害するため、枝幹内部が空洞となり、樹勢の低下や枯死に繋がる(図1)。
- (2) 被害を受けた枝幹では、幼虫の穿入口から木屑と虫糞が混ざったフラスが排出され、被害部からは発酵臭がする(図2)。



図1 幼虫による材部の食害



図2 被害木からのフラスの排出



図3 トラップに誘殺された雄成虫



図4 枝幹から得られた中齢幼虫

## 5 形態

成虫は開張約40～60mmで、前翅は灰褐色で複数の黒色波状線が見られる(図3)。幼虫は背面が赤紫色の芋虫状であり、最大で40mmほどになる(図4)。

## 6 生活史・生態

- (1) 成虫は6月～8月にかけて発生する。
- (2) 卵は粗皮の隙間などに卵塊で産み付けられ、孵化した幼虫が枝や幹に穿入する。
- (3) ヤナギ類、ポプラなどが一般的な寄主として知られており、近年、りんご、なし等の果樹に対する被害が増加している。
- (4) 飼育記録から、羽化には少なくとも1～2年を要すると考えられる(中牟田ら, 2007)。

## 7 防除対策

- (1) 幼虫が集団で加害するため、被害部位は翌年以降の発生源となる。被害部を見つけ次第切除し、ほ場外で粉砕するなど適切に処分する。
- (2) 産卵を防止するため、休眠期に粗皮削りを行う。
- (3) なしでは多目的防災網を設置し、ほ場内への侵入を防止する。
- (4) スタイナーネマ・カーボカプサエ剤(商品名: バイオセーフ)を幼虫発生期に使用する(幼虫は枝幹内部に穿入するため、木屑排出孔に対して薬液を樹幹注入する)。農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ、農業振興事務所等の指導のもと適正使用する。
- (5) 本来の寄主であるヤナギ類がほ場周辺にある場合には、発生源となるおそれがあるため、除去することが望ましい(中西ら, 2009)。

## 8 引用文献

- 中牟田潔ら(2007) 森林防疫 56: 5～9.  
中西友章ら(2009) 四国植防 44: 23～27.

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/>)までお問合せ下さい。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012